

六字の御名を称えつつ

善導大師は、『お正信偈』の中の切れ目で、「善導独明
仏正意」と出てきます。仏の正意を明らかにしたとは、
浄土教の流れをぐいと際立たせたのです。それは南無
阿弥陀仏の意味をこのようにご説明になったのです。
南無は帰命（仰せに従います）なり。それは同時に発
願回向なり。（お浄土に生まれたいという願いを表して
いる）。阿弥陀仏はその行（行為）なり。お浄土に生まれ
たいと願って行う念仏に、意味ありとされました。

同じ言葉を親鸞聖人は、南無は本願召喚の勅命なり
（阿弥陀如来が、こつちへ来なさいと呼びわめておい
でになり、背くわけにはいけませんよと受け止めを
なさいました。発願回向は、如来さまがこつちに来い
と願ってそのお気持ちをお返し向けておいでになるの
です。そして（お気持ちをお返し向ける方法としては、私の
名を呼んでくれと）その願いをお返し向けて下さってい
るのです。だから念仏は如来さまのお念仏です。親鸞
聖人は如来さまの願いを受け止める念仏、それは念仏
を修行することもできない私という思いからです。